

令和2年(2020年度)

## 第2回留萌地域いじめ問題等対策連絡協議会の概要

事務局:留萌教育局教育支援課

令和3年2月9日(火)、留萌合同庁舎及びビデオ会議システム「Zoom」を活用して「第2回留萌地域いじめ問題等対策連絡協議会」を開催しました。本会議には各関係機関・団体から14名の会員が出席し、今年度の重点に関する協議を行い、取組の成果等について共有するとともに、次年度の方向性を確認しましたので、概要についてお知らせします。

また、別添資料のとおり、各関係機関・団体の取組を事務局において、重点ごとに整理しましたので、今後の取組の参考としてください。



### 重点1 自己有用感を高める取組の推進

＜今年度の取組＞

柱1「やって良かった」「自分は役立っている」感を実感できる活動

- ・これまで留萌管内が実践を積み上げてきた「生徒指導の三つの機能」を生かした授業改善を一層推進するとともに、児童生徒が学習に対する成就感や満足感を得ることができるよう、児童生徒が目標をもって学習に取り組んだり、学習を振り返って自己の学びの変容を自覚したりできる取組を進めることができた。

柱2「異年齢集団や異校種間での交流」

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、可能な範囲で取組を推進することができた。具体的には、縦割り活動等を位置付けた学校行事の企画や運営を児童生徒が行う取組やボランティア活動などの中で、児童生徒が主体的に地域課題を捉え、課題解決に向けた取組等を推進することができた。

### 重点2 いじめを未然に防止する取組の推進

＜今年度の取組＞

柱3「早期発見・早期対応に向けた関係機関との連携体制の充実及び改善」

- ・「地方いじめ防止基本方針」を策定し、地域と学校が一体となったいじめ防止に向けた体制整備を推進することができた。
- ・保健師を活用した学校との情報共有やスクールカウンセラーを活用した児童生徒の相談体制の構築など、外部専門家と連携を図った取組を推進することができた。

### 今年度の成果と課題

(○=成果、●=課題)

- いじめの問題について、児童生徒が主体的に考える取組や異年齢交流をとおした体験活動など、実施方法を工夫したことにより、自己有用感を高める取組が進められいじめの問題への対応の充実が図られたこと。
- 「地方いじめ防止基本方針」の策定や見直しを確実に推進し、家庭や地域、関係機関が一体となったいじめ防止の取組を推進したこと。
- 学校及び関係機関が、各種調査等に基づいて児童生徒の実態を分析し、児童生徒の実態に応じた実効性のある対応策を工夫する必要があること。
- 新型コロナウイルス感染症による不安感から、SNS等によるネットいじめが発生していることから、未然防止に向けて児童生徒が主体的に考える取組を継続するとともに、情報モラル教育の一層の充実を図ること。

＜次年度に向けて＞

- ・いじめの定義に基づく正確かつ積極的な認知を確実に進め、学校と関係機関等における取組の一層の向上を図ること。
- ・いじめの認知零については、児童生徒や保護者に周知するなど認知漏れを確実に防ぎ、いじめの早期発見に努めること。
- ・今年度の成果と課題を踏まえ、情報モラル教育の充実に向けて学校や関係機関の連携した取組の一層の充実を図ること。